

平成 29 年第 9 回庄原市教育委員会 会議録【秘密会】

【午後 1 時 44 分～午後 2 時 28 分】

- 教育長           ただ今から会議を非公開とします。
- 前回と同様に委員の発言が特定されないことを条件に後日議事録を公開することについてお諮りします。よろしいでしょうか。
- 全員             よい。
- 教育長           それでは議事録を公開するという事でよろしくをお願いします。
- 日程第 5 の議案第 52 号「平成 30 年度使用小学校用教科用図書の採択について」を議題とします。事務局より議案の説明をお願いします。
- 事務局           議案第 52 号「平成 30 年度使用小学校用教科用図書の採択について」ご審議をお願いします。平成 30 年度に使用する小学校用教科書、具体的には「特別の教科 道徳」ですが、採択について教育委員会の決定をお願いするものです。こちらにつきましては議案第 52 号別紙資料をご覧ください。平成 30 年度使用小学校用教科用図書採択に係る調査研究答申です。この答申に基づきまして、少しご説明します。1 ページをご覧ください。今回の採択に係りまして、選定委員の皆様の氏名をそちらへ挙げております。8 名の方をお願いをしました。この方によりまして選定委員会を 2 回開いていただき、2 ページ以降の答申書を提出していただきました。答申ですが、8 者申請がありましたのでそれぞれにつきまして特色を五観点に基づいて分析をされています。この調査観点に基づいて、分析、調査いただきました結果、最後のページにあります総合所見ですが、『特別の教科 道徳』を新設するに当たって、どの学校においても授業の質を確保することが望まれている。発問を『考えよう、話し合おう』と示すことによって、児童が主体的に考え、学ぶことができる。また、道徳ノートが内容項目ごとに構成されていることによって、児童が自己の成長を実感することができる。以上の理由から総合的に判断して、『廣済堂あかつき』を選定する。また、発問や学習活動が詳細に示されている『日本文教出版』を第二候補に選定する。」以上です。ご審議をよろしくお願いします。
- 教育長           各委員の皆様が、これまで、教科書に関して資料を見てこられたことと思いますので、ご意見をいただきたいと思います。自由闊達にということで非公開になりましたので、どうぞ忌憚のないご意見を存分に述べていただきたいと思います。
- 私は 8 者を見るときに中身以前の問題として分冊があるのがいいのか、ないのがいいのかということを迷いました。日頃授業でいうと、先生がプリントされて綴じていくという状況がありました。中心的な発問など、ポイントを絞れるかどうかというのがありました。分冊があるのは 3 者でしたが、その中身がどうか。選定委員会では、まとめのノートがあった方がいいという意見が強かったように思います。そうすると 3 者に限られるのかと思いました。その点についてどう感じられたかし

っかり意見を聞かせてもらいたい。

教育長

先にこれに絞りますと、多様な意見がなかなか出せなくなりますので、例えば、別冊がない方を頭に描いている方がおられるかもしれませんので、その点につきましては、後ほどで設けますので、まずは自由に意見を述べていただき、その中で議論をするものをどうするかとか、皆さんのご意見を参考にしながら柱立てもしたいと思います。まずは、色々教科書を読まれてどう思われたか、ご意見をお願いします。

○

もう1点。教材文についてです。テーマについて、具体的にかなり絞ったテーマがあったり、あるいは教材文の途中で、「これを考えましょう」というものがあったり、一番最後にまとめて考えたり、生活の中で取り組むことがあったり等、教科書によってずいぶん違いました。一つ思ったことは、事前に読ませてくることで、こうあるべきと建前的なところへ流れてしまったのでは、道徳の価値は無いのではないかという思いがしました。このテーマの示し方、考えること、最後のまとめ、それらの点をどのように考えるべきか、あまり細かい発問等が多くあると、本当に考えさせたいところへ迫りにくいのではないかという気もしました。一方で、観点がたくさんあることによって、先生方がポイントを選べるのかとも思います。

教育長

テーマの示し方や考えること、まとめのことです。県教育委員会が提示している選定資料の中にも、「基礎基本の定着」の観点のところで、一応整理してありましたが、そういう違いがあるというご意見であると思います。どれを良しとするかというご意見が出ればと思います。まずは色々意見を言っていたきたいと思います。

○

どの教科書にも共通教材として載っているもので、表現の仕方などについて比較してみました。例えば第1学年の「橋の上のおおかみ」について言えば、文章で書いている教科書もあれば、四コマ漫画のように書いてある教科書もあります。それが子供たちにとってどっちがいいのか。特に、低学年だったらどのように受けとめるか。印象としては、絵が中心になっている方が分かりやすいのではないかと思います。

教育長

そのほかどうでしょうか。

○

私も同じで、絵で比べて考えました。教材に掲載されている絵は、子供にとって分かりやすい絵とそうでない絵がありました。具体的には、先生側から見た絵と、子供側から見た絵がありました。子供側から見た絵は、ヨシタケシンスケさんの絵です。ヨシタケさんは、今、小学生にも中学生にも大人にも人気のある方です。ヨシタケさんの絵が使われている教科書がありました。子供にとってその絵の方がずっと入ってくるのかなと考えます。どちらの視点で考えるか。絵を見たときの先生の気持ちと子供の気持ち。その点で迷っていましたが、午前中の選定委員会からの説明を聞きながら、5、6年生はどのように受け止めるのか考えていました。けれども、道徳に精通されている選定委員の話を聞いてから、子供達を信じて5、6年生でも大丈夫だという考えに落ち着きました。

教育長

絵の観点からであるとか、別冊があるかどうかの意見がありました。その他どう

でしょうか。

- 先ほどから別冊についてありましたが、私は別冊があるかないかというのは一つの大きな観点でした。やはり教える側にとっても子供達にとっても別冊の活用が有効に機能した場合には非常に良いのかなと思いました。それを先ほどの所見の中でどの学校においてもどんな先生においても、ある程度の質が確保される道徳の授業、という言葉になるのかなと思って聞きました。ただ逆に言えば、今までの教科になる前の道徳の授業というのは、その場で資料が配られて、「話し合ってみよう、考えてみよう」でした。そうではなく、1年間通して教科書があって、別冊もあって、ということだと型にはまったような感がなきにしもあらずのような気もしてきます。別冊を実際に先生がどのように活用するのか、この教科をもう少し勉強しなければなりませんが、模範的な回答なり考えなりが導かれた場合、子供達は別冊に最終的にそれを書きたいと思うのでないか。そうすると別冊があってもなくても、それぞれの想いを書くための別冊ではなく、別冊は自分の考えを書かずに空欄にして置いて授業の時に先生が言うことを書く別冊になってしまうことはないのか。そうすると、いわゆる型で押したような別冊にしかないのではないのか。だから、最初は別冊がある方がいいと思っていたのですけれども、非常に難しい気持ちになっています。それから、やはり答申書に書かれている、同じような質の道徳教育が行われるべきだというのは当たり前、望ましいことであると思いますが、それが先生方の創意工夫を阻害したりしないのかという懸念も感じます。

教育長      その他どうでしょうか。具体的にどこの出版社はこうだとか、そういう意見はないでしょうか。

- 私もいろんな観点から検討しました。切り口からすれば、県教育委員会が示している観点が五つありました。これはもちろん大事にしなければいけないのは基本です。その他、いくつか考えてみたことを述べます。まず、今ありました道徳的価値がきちんと伝えるようにするためのものなのか、考えさせられるようなものにしてあるものなのか、どちらの要素が強いのかということを思いました。道徳的価値を伝えることができる、一方で考えさせるようにしてあるもの。微妙に言い方が違うのですがそういう分け方ができないだろうかと思いました。二つ目が先ほども出ております、別冊を準備して学習展開の補助とか考えをまとめるといった展開を考えているものかどうかという点で、3者と5者に分かれます。三つ目が学習手引きの展開がどうなっているのかという点を見ました。これは各出版社とも色々、例えば本文にあるものや別冊にあるもの、キャラクターを使用するなどそういう観点、さまざまな点から学習の手引きの使い方を見てきました。四つ目はなんといっても道徳の教材がどうなのかということで、ここに一番ポイントを置くべきだということです。教材文がどれだけ子供達の心を動かして、道徳的価値の勉強ができるのかという為の教材は何なのか、その教材がたくさん入っている出版社はどこなのか、というようなことを見てみたいと思いました。その手立てとして色々なやり方があると思います。だから教材全てを読んでみました。その上で、例えば、すべての出版

社にある共通教材をどう扱っているかという比較をしてみることに。それから、各出版社の教材一覧を作ると、同じ教材が、3者、4者の教科書に掲載されていることも分かります。つまり、共通教材がたくさん入っている出版社とそうでない出版社ということがあります。それから、どの人物を出して、どういうことを学ばせようとしているのか。学ぶようになっているのかという、人の生き方から迫っているものについて考え、これも見ておかななくてはならないことで検討しました。でもさまざまな観点があっても私は心をどれだけ動かせる教材なのかというところに力点を置くべきかではないか、別冊があろうがなかろうがと言ったら語弊があるかもしれませんが、こういう教材がたくさんある出版社がいいのではないかと考えています。

教育長

今度は個別に出版社名を言って、具体的に検討して、「これは駄目だ」とやっているのか、「これでいきましょう」とやる方法等、色々あると思うのですが、先ほどから出ているように一つの柱だとして、別冊の扱いが議論になっているのですが、その点についてどうでしょうか。今、一長一短であるという意見が出ましたけれども、その辺りはどうでしょうか。別冊があるものが「学図」と「日文」と「廣あかつき」です。それぞれ違いがあります。その違いもよく見ていかなければいけないと思うのですがいかがでしょうか。

○

私が見たところでは「学図」は質問、手引きを1問から3問ぐらいまでまとめてあって、そして半ページで更に深めようとしています。教材文があって、活動を中心とした別冊があります。だから、授業の展開としてはやりやすいという面があるかと思います。要するに、子供たちに見せなければ教材だけで進めることができる。

「日文」は手引きで押さえた上、別冊で更にたくさんを書くという、非常に網羅的にきちんとできています。つまり、これだけは絶対に学ばせようという場合は「日文」が非常におすすめだと思います。適切な表現が見つかりませんが、がんじがらめのように確実に最後までもっていくというやり方ができます。「廣あかつき」は別冊で深める日記風であり、いたって自由な書き方をするようになっています。これは使い方によりけりだと思いますが、使っても使わなくてもいいような扱いをすれば十分通用すると言うことができると思います。

ちなみに私は別冊がある方を選びたいと思っています。ただし、危惧されている面があるように、先生方に自由裁量をもたせるべきじゃないかと思っています。要するに、別冊は使っても使わなくてもいいというぐらいのスタンスであるべきではないかと思っています。と言うのは、別冊がなくても先生方はワークシートを作られると思います。あるいは書かせることの何か作業を実際に取り入れられると思います。このようなことがあるので、「日文」のようなきちんと書くような方式ではなくて、いささか自由な「廣あかつき」の方がいいのではないかと思います。書くスペースは多いですけども使っても使わなくてもいいという捉え方とか、「学図」の更に深めようというやり方も効果的かと思いました。

○

教育長

別冊を使わなくてもいいという選択肢があればいいですね。

全部使うということになると、そこらがどうかという議論が出ると思うのですが、

いずれにしても授業のどこかに書く活動が入る展開が予想できます。

- 別冊があっても先生方はプリントとか作られますかね。今まで作られていた先生方も多いと思います。その作業時間が別冊に変われば違うかなと思います。
- そうですね。今まで、もしかしたらファイルに綴じさせて道德の歩み、心の変容がわかるようにされていた先生もおられるかもしれません。そうしてみれば、別冊があったほうが蓄積されやすい。心の成長がわかるし、子供もあの時こんなことを書いていたとわかる。子供たちの道德性に係る学習状況における評価する際に、手がかかりとなるものを書かせておかなければいけない。何か書く材料があったほうがいいのではないか。その点、使いやすいものを見たときに「廣あかつき」がよいと思います。
- どの先生が指導しても子供達に均等に道德の授業ができるように、きちっと書かせようと思えば「日文」です。もうストーリーが決まっているようにもみえます。本当は指導者がもっと創造的に考えればできるけれど、意外とその通りにやっていく可能性があります。余談ですが、道德的価値がきちんと伝えるようにしてあるのは「日文」と「教育出版」だと思います。一方で、道德的価値について考えさせるようなものにしてある、どちらかというと結論はこうあるべきだというのではなくて、考えさせるようなやり方をしているのが何者かあります。その中で、道德的価値を自分で考えさせることが多いのは「学研」、その次に「東書」「光村」「光文」だと思います。この両方の要素をもっているのが「廣あかつき」と「学図」なのではないかと思います。それらを総合した時に、そういう要素が別冊に入っている「廣あかつき」「学図」が候補に挙がるのではないかと思います。
- だから私が最初、子供側で本を見たときに、「学研」には少し抵抗がありました。
- 「学研」はどちらかというと自由的です。私はこれについて、少し疑問点があります。というのは、子供というのは、「考えて」と投げておいて考えるのかといったときに、案外考えない場合が多い現状もあります。ならば、できれば良い教材を与えて、良い教材を少なくとも読ませるようにして考えさせる、何か手立てがあって考えさせる、という最低ラインはいるのではないかと思います。授業の進め方なのですけれども。選定委員会でもあったように、質をきちんと担保しなければいけない。そして評価も考えなければいけない。庄原市の子供にとって、あるいは先生方にとって子供たちにどういう教材を与えて、どう進めるのがいいのか、どの教科書がいいのかということを選ぶ要素に入れておかなければいけないと思います。
- 教育長 例えば共通教材を比較されたというのは、他には何か違いを見つけられましたか。
- 教科書によって表現の仕方が異なっていました。色々と教材が選べるような選択肢が多い教科書がいいのかなと思いました。
- 教材は、35教材が基本となっています。というのは週に1時間が基本です。ですから「光文」と「教育出版」以外は全部35教材です。基本的には、教科書に掲載されている教材を全てやれば道德の時間はきちんとできるようになっています。ところが文部科学省の説明は、そうはいつでも学校独自の教材や地域の教材を使っても

いいとなっています。でも、その割合は示されておられません。主たる教材は教科書となっています。だから半分も教材を入れ替えるとかは考えられません。つまり、なぜ「光文」が40教材も出されているかというのはそこから少なくとも選びなさいという観点があるのかかもしれませんが、35教材が一般的だと考えられます。更に地域の教材を扱うとなると、もっと増えるわけです。しかし、学習指導要領に示された内容項目を低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目は年間必ず全部やらなくてはなりません。一方、「教育出版」は34教材しかありません。これについて、色々考えてみたのですが、1時間をおそらくオリエンテーションのような時間を取っているのではないかと。これは道徳の時間に入れるべきではないと思います。そうではなく、地域教材だけ入れればいいから隙間を空けてあるという説明があるかどうかは別として、オリエンテーションを入れてあると思われる。教材の数は35教材が基本と考える方がいいと思います。

- 同じ教材でも学年が違っていたものがあると思います。私も調べてみたのですが、同じ教材でも文章の書き方が違ってきます。8者とも全く同じものはあまりありません。タイトルは同じでも微妙に変えてあるのです。例えば「手品師」において、「東書」では「結論の気持ちはどうか」というようなことなのですが、「学図」は「誠実について」、「教育出版」は「結論を出して素晴らしいところを誠実」、「光村」も「どんな想いから子供の方を選んだのかという誠実」、「日文」「光文」については、なりきらせ「誠実」について考えさせるということが中心になっています。「学研」は主題を「どんなことを与えたのか」等を問うています。「廣あかつき」が唯一「僕たちにとっては」という表現で書いてあります。「お母さんの請求書」でも「廣あかつき」は「進んでするよ」や本の紹介がされており、工夫している箇所もあります。また、「東書」は、「涙を」や「ぼやける」という言葉を使い、心情に訴えるような工夫をしています。「雨のバス停留所」についても、「廣あかつき」は「あなたなら何か言ってあげること」というように「あなた」という問いかけが入っています。他の出版社には入っていません。このように、各出版社の教科書に載り、同じ題材名でも言葉や表現が異なり、ポイントというところに考えようとする言葉を用い、道徳的価値に迫ろうとする工夫という観点で、私は「廣あかつき」がよく研究されているなと感じました。「金の斧」の教材において、「おまえ」という表現を用いているのが、「学図」と「学研」です。「東書」は「嘘をついてはいけない」、「教育出版」は「嘘をつくのは良くない」、「光村」は「嘘をつくのか」、「日文」は「嘘」という言葉ではなく「正直」という言葉で迫っています。「光文」も「正直」、「あかつき」は「嘘をつかない」「ごまかしはいけない」「仲間は心の中でどんな事ことを言ったでしょう」といった表現を付け加えてあります。このように、同じ教材でも少し工夫があって、いわゆる教材文にこだわっているのが「廣あかつき」ではないかと感じます。非常に心に染み入るといえるか、いい話や表現が多いと思います。

また、「手品師」の絵だけを比べても、「廣あかつき」顔の表情とか場面とかの印象が良い。それから人物のことです。例えば、野口英世を親孝行で扱っている出版

社がありましたがどうかと、視点が違うのではないかと思ったのですけれども、皆さんはどう思われたでしょうか。これは意見が分かれるのではないかと思います。それから、東京オリンピック・パラリンピックを意識してスポーツ選手を取り上げたところが大変に多かった特徴があります。

教育長            そのほかどうでしょうか。

○                「廣あかつき」について、最初に思ったことは、資料の量が多いということです。1時間でこなせるのかなと思ったのですが、多いということはそれぞれ学校なり、地域なり、実態に合わせ教材を選んでいいという観点でいうと、選択ができればしっかり活用できるかなという気がしました。別冊が他のところと多少比べると違うという気はしましたが、他にない工夫がされており、良い印象をもちました。

○                ノートが付属する中では「あかつき」は、印象が良かったです。

教育長            それでは選定委員の方からも第一推薦に「廣あかつき」が挙がっておりますし、今までの意見をまとめて総合的に判断すると、「廣あかつき」を選ぶということによってよろしいですか。

全員                よい。

教育長            それでは、庄原市では「廣あかつき」を選定するということで決定したいと思います。

事務局            慎重にご審議いただきありがとうございました。なお、9月上旬に、県内全採択地区の採択結果が公開される予定です。それまでは、守秘にご配慮お願いいたします。